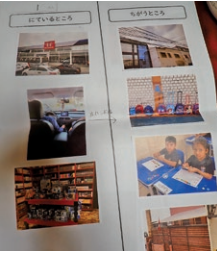

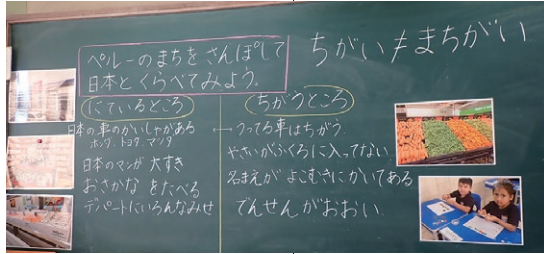




<b>単元名:世界の人たちがなかよくらせる社会にするには? ~キング牧師の夢をかなえよう~</b>		
氏名:天下 若菜	学校名:京都市立竹田小学校	
担当教科:全教科	実践教科:国語、道徳、学活	
時間数:5時間	対象学年:1年生	人数:20人

**【実施概要】**

<b>【1】単元のテーマ・目標</b>		
世界の人たちがなかよくらせる社会にするには~キング牧師の夢をかなえよう~		
<b>【2】 単元の評価 規準</b>	(ア) 知識・技能	ペルーと日本との文化の違いや他国と日本とのつながりの歴史を知ることができる。
	(イ) 思考・判断・表現	他国の人々の気持ちを想像し、共生するために大切なことや自分にできることを考えることができる。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	他国の人や文化に親しもうとすることができる。
<b>【3】 単元設定の理由</b>	<p>&lt;児童観&gt;                      本学級の子どもたちは、素直で、相手のことを考えようという気持ちをもつ子どもが多いが、1年生ということもあり、自国と他国の文化の違いなどはほとんど知らない。しかし、学級内には外国にルーツをもつ児童も在籍しており、少し日本語が苦手な児童が自分の伝えたいことが伝わらず、トラブルになることもある。児童にはこれまで人権啓発・参観授業でキング牧師を取り上げ、キング牧師の夢について考えた。「肌の色が違うから差別されるのはおかしい。みんながなかよくらせる世界にしよう」というキング牧師のメッセージを受け取りつつも、具体的にはどうすればいいのかイメージすることができず、自分事として考えることができる児童は少なかった。</p> <p>&lt;教材観&gt;                      今回は、ペルーの街並みや学校、スーパーなど、児童がより身近に思えるところから日本との文化の違いを実感できるようにしたい。そして、「もしも転校生としてペルーの人がきたら」と具体的に場面を想像することで、自分たちはどう考え、行動するのが良いのか考えるきっかけにしたい。また、ペルーで出会った現地通訳のフランク・コルマさんが話して下さった自分自身の子どもの頃のお話を伝え、その時のコルマさんの気持ちに子どもたちが寄り添うことで、自分事として考えるときのヒントにできるとよいと思う。</p> <p>&lt;指導観・児童に期待する変容&gt;                      ペルーと日本の様々な違いを見つけたときに、子どもたちはたくさんの違いがあることに驚くだろう。そして「ちがいはまちがいは」ではなく、むしろ当たり前なんだ!と自然に思えるのではないかと考える。その違いを知ることで、自分とは違う文化の中で育ったペルーの子供が日本に来た時に、ペルーの子が日本との違いに戸惑ったり、不安になったりすることも想像できる。外国の人が日本に来たときに、なかよくなるのは難しいことではなく、あいさつしたり、相手の気持ちを考えたりと、普段友達にしていることをこれからも大切にすれば、自分たちもなかよくすることができるんだという気持ちをもたせたい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 児童/生徒観</li> <li>✓ 教材観</li> <li>✓ 指導観</li> <li>✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容</li> </ul>		

【4】展開計画(全5時間)				
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材	
1	<p>夏休みのことを話そう 「ペルーへ行ってきたよ」</p> <p>ねらい ペルーがどこにあって、 どんな国を知り、ペルー ーという国に興味をもつ</p>	<p>①ペルーの概要を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球儀上の場所</li> <li>時差</li> <li>季節が違う</li> <li>国旗</li> <li>世界遺産(ナスカの地上絵・マチュピチュ)</li> <li>言語</li> <li>ペルーのホームビジット先で出会った人</li> </ul> <p>②授業者自身がペルーへ渡航したこと、感じた気持ち、ペルーの子ども達へ授業を実施したことなどを伝える。</p> <p>③児童が2人組で夏休みにしたことを伝え合う。</p>	<p>プレゼンテーション ペルーの民族衣装 ペルーの楽器</p>	
2	<p>ペルーでお散歩レッツゴー! 似ているところとちがうところ</p> <p>ねらい ペルーの街並みや学校、 スーパーの様子から、日本との 共通点や相違点に気づき、新 たな疑問をもつ。</p>	<p>①ペルーの街並み、学校、スーパーの写真を教室の壁側付近に置く。子どもたちはペルーを散歩する気持ちでその写真を取りに行き、日本と似ているところや違うところを見つけ分類する。</p> <p>②見つけた共通点や相違点をクラス全体で共有する。</p>	<p>ペルーの写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家</li> <li>ランドセル</li> <li>スーパー</li> <li>学校の女の子</li> <li>タトゥーをしている人</li> <li>日本の「ホンダ」の会社</li> <li>本屋に並ぶ日本の漫画</li> </ul>	
  		<p>①外国からきた転校生 (学校へいくとき)</p> <p>ねらい 外国から来た女の子にあいさつをする、ことができなかつたときとできたときの「ぼく」の気持ちを想像し、自分から進んで関わっていきうという心情を育てる。</p>	<p>①道徳教材「学校へいくとき」を読み、「ぼく」があいさつできなかったときの気持ちを考える。</p> <p>②その後、あいさつすることができて、女の子と笑い合う「ぼく」の気持ちを考える。</p> <p>③いろいろな国のあいさつの音声を聞いて一緒に行ってみる。</p> <p>④あいさつゲームでいろいろな国の人になり切り、いろいろな国のあいさつを楽しむ。</p>	<p>道徳教材「学校へいくとき」の挿絵 いろいろな国のあいさつ(音声)</p> <p>あいさつカード</p> 
				

<p>4</p>	<p>②外国からの転校生 (学校の中で)</p> <p>ねらい ペルーから来た女の子がピアスを付けていることについて、議論することを通して、異文化に対する考えを深める。</p>	<p>①第2次に 気づいた「女の子が学校でピアスをしていること」について、事情を知り、日本の学校でもよいと思うかを話し合う。</p> <p>②自分が転校してきたペルーの女の子の気持ちになり、「してほしいこと」「されたくないこと」を考える。</p>	<p>ピアスを付けて勉強する女の子の写真</p> <p>自分の気持ちをかくためのワークシート</p>
<p>5 本時</p>	<p>コルマさんにインタビューしよう</p> <p>ねらい ペルーから日本に実際に転校生としてやってきたコルマさんの行動や気持ちを知ることを通して、外国の人の気持ちに寄り添い、共に生きるための行動を考える。</p>	<p>①ペルーで出会った日系3世の方の写真を見て、「この人は何人」と言えるのか考える。</p> <p>②日本からペルーへ行った人、ペルーから日本へ来た人がいることを伝える。</p> <p>③フランク・コルマさんを紹介し、フランク・コルマさんのことを質問形式で知る。</p> <p>④ペルーで日本の言葉を学校目標にしている学校を紹介する。</p>	<p>日系3世の方の写真</p> <p>フランク・コルマさんの紹介プレゼン</p>

【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (15分)	<p>前回、考えた「ピアスをつけて学校で勉強している女の子」についてふり返る。 キング牧師の話を想起し、めあてにつなげる。 ・転校生のほんとの気持ちを知りたいな。</p>	<p>・ふり返りの内容を紹介することで、考えを深められるようにする。</p>	<p>・ピアスをつけて学校で勉強している女の子の写真</p>
<p>コルマさんのインタビューをきいて、みんなとなかよくらせるせかいをかんがえよう。</p>			
展開 (20分)	<p>今まで学習してきたことから予想する ・あいさつ ・相手のことを知る ・違いを知る</p> <p>外国の人に「何人?」と聞いている人がいるが、みんなは何人なのか、この女の子は何人なのか聞く。 日系3世の写真を見せ、この人は「何人」なのか考える。</p> <p>ペルーで出会ったフランク・コルマさんのお話をする。 ・日本語はどうやって勉強したのか→みんなにおいつくために必死で勉強した。 ・家族とはなれてさみしくなったのか→さみしかったけど友達と友達のお母さんのあたたかさで救われた。 ・日本でできた友達→一緒にサッカーをした。一生の友達。 ・日本で差別されている友達を見たとき→障害をもつ人に対しどうして差別するのか、おかしいと訴えた。自分も「くろんぼ人」と呼ばれたとき悲しかった。 ・お手本にしている人→友達のお母さん。「負けちゃダメ、めげちゃダメ、あきらめちゃダメ」</p>	<p>・予想が今までのふり返りになる。</p> <p>・日本から昔、ペルーに働きに行った人たちがいることを伝える。見た目と心は違うので、「何人」とは簡単に答えるのが難しい人もいることを知る。</p> <p>・フランク・コルマさんが日本で暮らしたときの気持ちを知ること、日本に来た外国の人たちの苦労を想像することができるようにする。 ・差別についておかしいという気持ちに寄り添い、声を上げることの大切さを伝える。 ・日本で出会ったかけがえのない友達や、友達のお母さんの存在が、コルマさんの人生を支えたという話をするので、つながりの大切さを実感できるようにする。</p>	<p>・日系3世の人の写真</p> <p>どんな話か、思い出せるように、一問一答形式で質問が板書に残るようにする。</p>

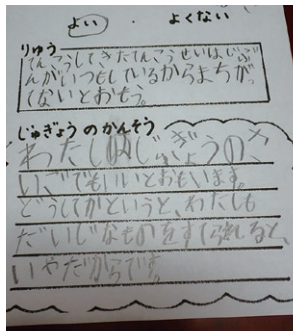


<p>まとめ (10分)</p>	<p>授業のふり返りを書いて発表する。 最後に、日本の心を学校目標にしている学校を紹介し、日本にも世界に誇れる文化や精神があることに気づけるようにする。</p>	<p>・コルマさんの話を思い出しながら、ふり返りを書くことができるようにする。</p>	<p>ワークシート ペルーの学校の写真 (日本の言葉を学校目標として掲げる日系校:ホセガルベス校・ラウニオン校)</p>
------------------	--	---	--

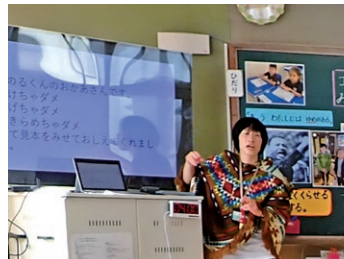
【授業実践の様子】



前時のふり返り



児童のふり返りをいくつか紹介



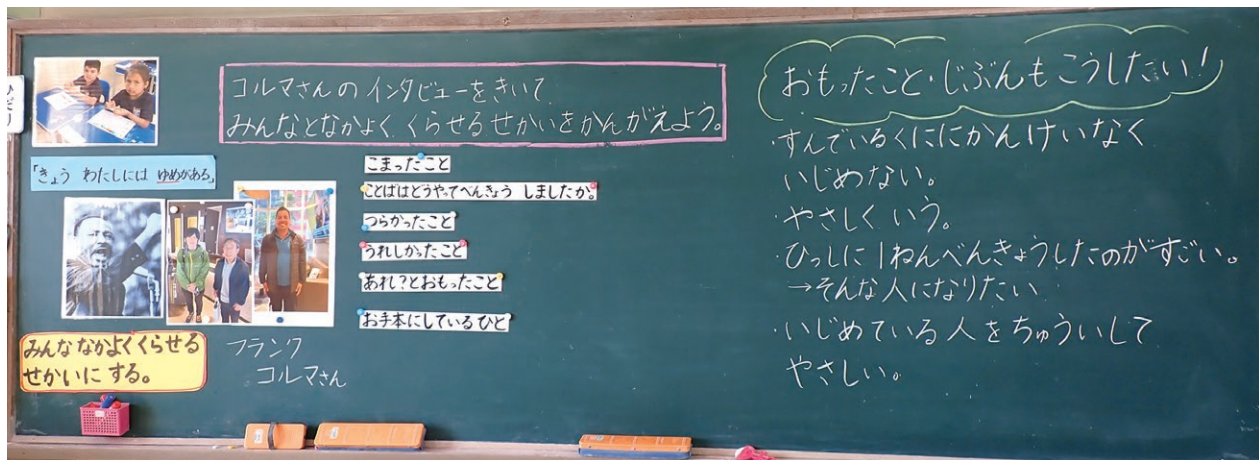
コルマさんのお話をインタビュー形式で伝える



コルマさん



日系3世の写真を見せ、この人は何人?ときく



当日の板書



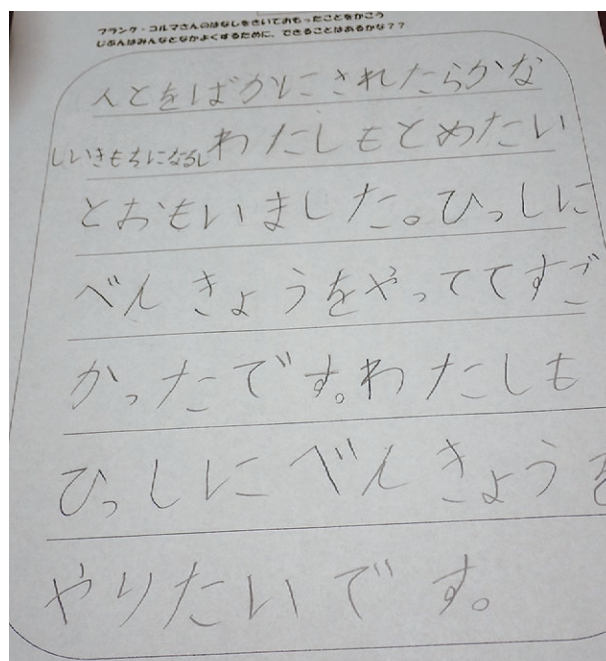
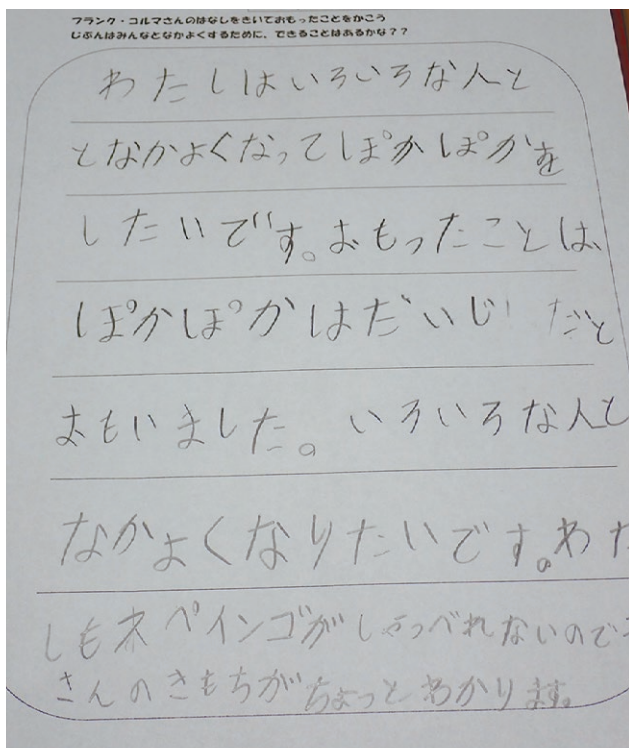
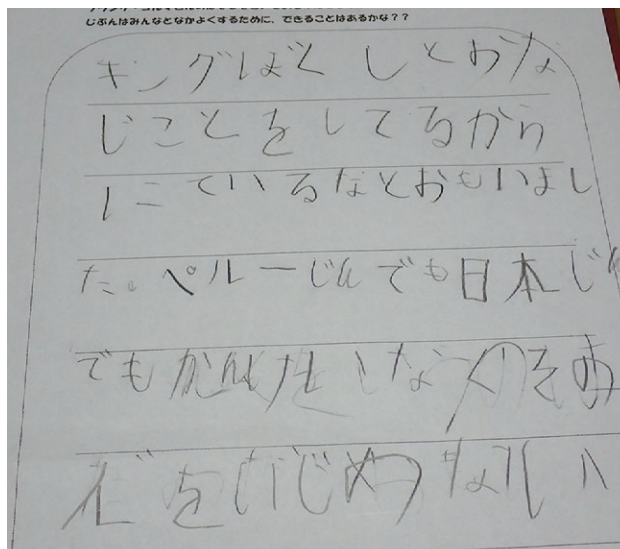
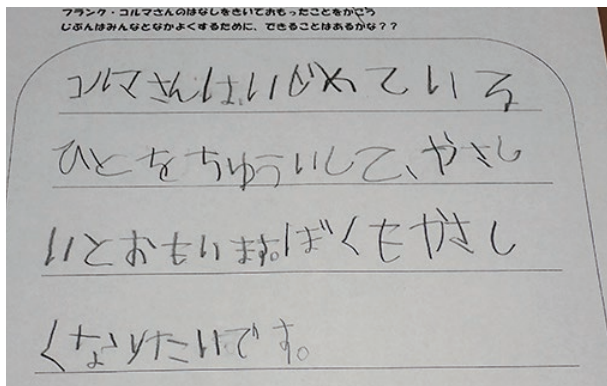
コルマさんの話を聞いて思ったことをワークシートに記入



ワークシートに書いたことを交流する



ワークシートのふり返し



コルマさんの話に対し、自分も…と「自分事」として考えられた。

【6】本時のふり返し

児童らは前時で、「ピアスを付けた転校生の女の子」について考えた際のふり返しを読むことで、考えを深めていた。ふり返りの共有においては、特に、転校生の女の子の気持ちに寄り添っているものを取り上げ、実際に転校してきた外国の人はどんな気持ちなのかにつなげたことで、フランク・コルマさんの話を興味深く聞こうとする姿勢につながった。また、前時の発言の中に「キング牧師」の夢として「世界の人々がみんな仲良くらせる世界にする」というものが出てきたので、それを紹介し、単元のゴールの軸にして授業を始めることができた。

コルマさんが、日本語がわからなくても宿題は毎日ちゃんとやって出していた話を聞いた児童は、「すごい」と驚いていた。宿題をさぼってしまうことのある児童に響いてほしい。コルマさんを助けたのが同じ小学校の友達とそのお母さんだということにも反応していた。「サッカーやったら言葉しゃべれへんでもできるもんな!」と納得していた。話の中にフランク・コルマさんが「くろんぼ人」とよばれて嫌だったエピソードを伝えた際、一緒に日系三世の方と写した写真を「じゃあこの人は何人かな?」と見せることで、「見かけで判断され、容易に「〇〇人」と呼ばれることが嫌と感じる人もいるかもしれないね。」という「じゃあどう言ったらいいの?」と頭を悩ませていた。

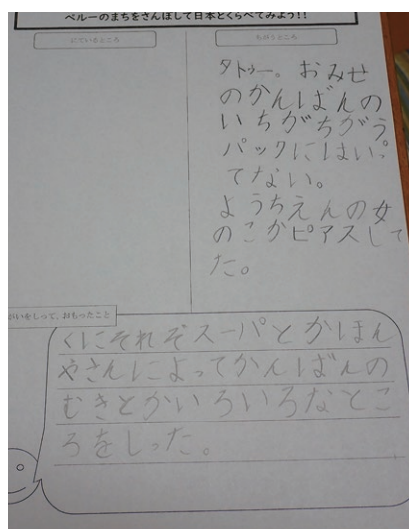
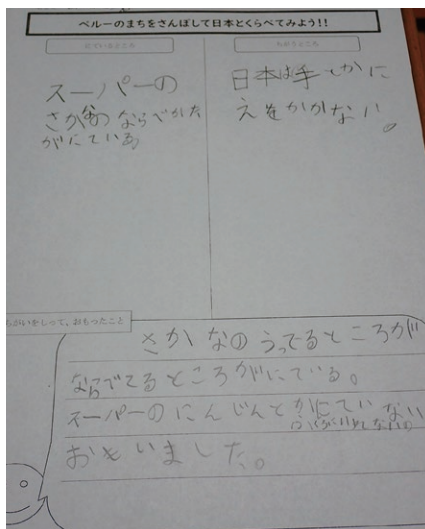
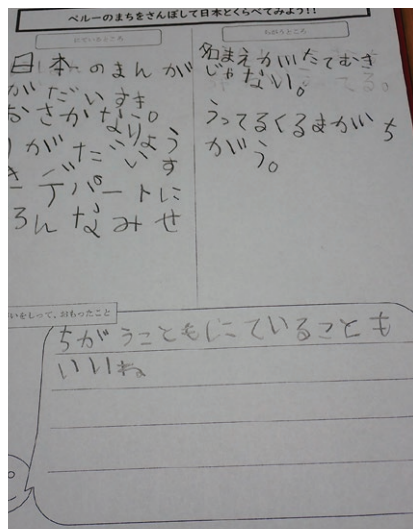
一つ一つのエピソードに反応しながら聞く姿勢はあったが、1年生ということもあり、紹介するフランク・コルマさんのエピソードが多すぎたのか、内容が記憶に残りづらかったのか、ワークシートを書く際手が止まっていた児童も多かった。挿絵と共に板書に残したり、もう一度どんな話が振り返ったりしやすい工夫が必要だと感じた。

実際の人の生の体験や気持ちはやはり子どもたちにとって分かりやすいと感じた。フランク・コルマさんのお話の中で、どういう部分が心に響くかは子どもによって違い、それを交流することで、考えを深めることができた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

単元のはじめの方では、「違う」ということ自体がイメージできていない児童が多く、日本との違いや似ているところを知るのが「興味深い」「面白い」という印象が多かった。また、日本と同じように魚や日本の漫画が好きと知ると、親近感をもった児童が多かった。1年生であるからか、違いがあまりに多いところから「国が違うんやし、違って当たり前やん」と単元のはじめから「違い」に対して柔軟な姿勢をもつ児童も見られた。

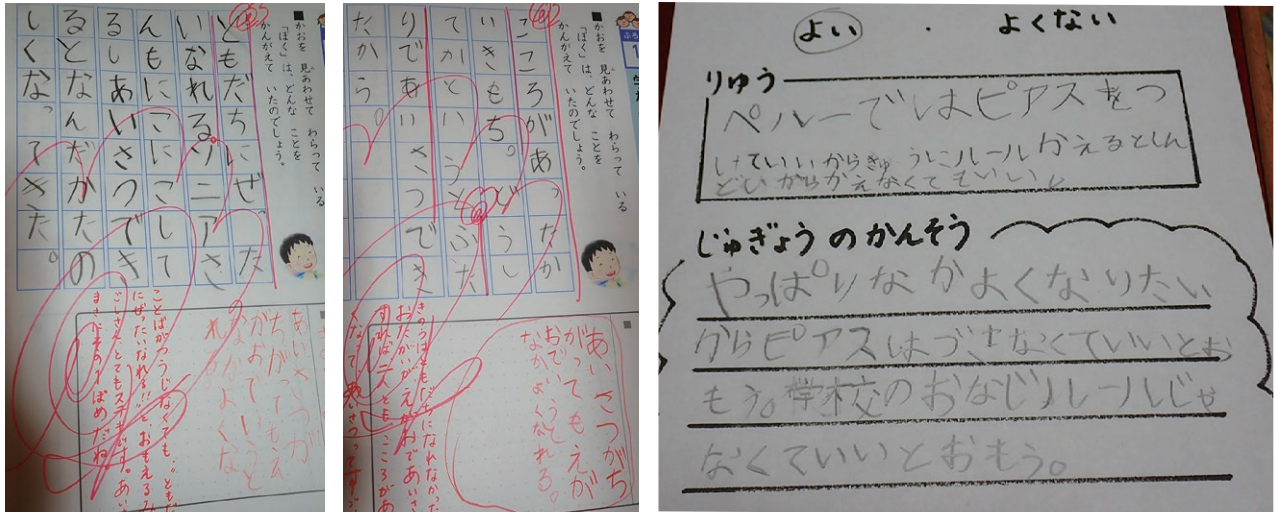
ペルーへお散歩レッツゴー! ~にているところとちがうところ~ のワークシート



単元の中盤からは、違う文化をもつ人と自分との関わりについて考えていくようになった。実際に違う国の言葉であいさつしあう「あいさつゲーム」は「あいさつが難しい」と戸惑う児童も見られたが、練習して言えるようになると満足していた。「女の子がピアスをつけていいの?」と子どもから出た素朴な疑問をもとに、いいと思うかクラスでも話し合ったところ、多数の意見が出て、考えを深めていた。なぜピアスを付けているかを知ると「それを初めに教えてよ」と相手の文化を知ることの重要性に気づいている子もいた。題材を「人」にすることで、子どもたちのふり返りや発言が相手の気持ちを考えているものになっていっていると感じた。



外国からきた転校生①・②のワークシート



そこから、実際に転校生として日本に来たフランク・コルマさんの気持ちや体験を知ること、[他人事]だった感想が「自分も～～していきたい」など、「自分事」として書いた児童が増えた。(授業実践の様子のワークシートのふり返りを参照)明日からの行動につながる気持ちをもつことができた。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

「ペルーの授業は何か大切なことを考える授業だ!」という雰囲気をもつことで、クラス全体で真剣に話し合える機会が増えた。2学期をふり返る作文を書いたときに「大事なことがなにか気づく力がついた」と書いている児童がいた。クラスの中にいるが外国にルーツのある児童に対して、けんかすることはまだあるが、「何を言ってるか分からないから聞かない」などの態度はなくなった。また、世界の国のあいさつを書いたポスターを授業後に貼ったが、興味を示していた。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

1年生は思った以上に世界の国についてのイメージがほとんどない状態だった。英語活動はしているため、「外国の人にはとりあえずハロー!っていったらいいやん。」という思いをもっている児童もいた。国が違うと食べているもの、季節、習慣、言葉がいろいろ違うということを丁寧に教える必要性を感じた。

(授業後)

何が違うのか、具体的な写真や情報を伝えることで少しずつ分かっていった。日本が当たり前じゃないことに驚きながらもそれもいいね!!と受け止められる児童が多かった。日本とは違うけどペルーの人が「幸せ」と言っていた話をすると、「日本と違うからかわいそうって決めるのは変だな」とモヤモヤと考えている様子も見られた。

「外国から来た転校生」の授業を通して、自分が積極的に関わって相手に優しくしたいと思うことができたと感じる。



【8】自己評価	
1. 苦労した点	<p>ペルーと日本との違いを知る授業の中で、教師がどのような情報を与えるかで、児童のペルーに対する印象が違ってくる。「ペルーに行きたくない」など、ペルーのイメージが悪くなる可能性が出てくる。ペルーの盗難に関する話題に対しては「なぜ」という疑問を投げかけてくれたが、素直に答えるのが良いのか、迷った。答えることで危険だ、治安が悪いというイメージがつくと感じたからだ。その場は素直に答えたが、ペルーの素晴らしいところを伝えるはずが、子どもたちにとっては悪いところが印象に残ってしまったかもしれないと感じた。</p> <p>また、前半は写真をもとに授業をしていたが、写真だけだと想像の域を出ない。他人が勝手に想像することはできるが、それだけだと、相手を理解することはできないと学んだ。やはり、自分自身がコルマさんから聞いたように、本人から「自分の気持ち」を伝えてもらう経験は非常に貴重だと感じた。</p>
2. 改善点	<p>1年生にとっては世界の国々について何一つ知らない児童も多いので、いきなりペルーを題材にするのではなく、いろいろな国の文化や違いを知れるような授業を単元のはじめにしたほうが良いと感じた。</p> <p>また、自分が伝えたい単元の流れに固執しすぎず、子どもたちの声を聴いてそこで生じた疑問や感想文から、次に話し合うテーマを決める柔軟な授業運営の重要性に気づいた。特に低学年にとっては、「大切」とされる価値感を一方的に押し付けられるのではなく、そのことについて皆で話し合う必然性が重要なのだと感じた。</p> <p>また、低学年の児童にとって、誰かのエピソードを語る時、挿絵や写真は必ず必要だと感じた。その挿絵を板書に残し、フィードバックできる支援が必要である。</p>
3. 成果が出た点	<p>子どもたちが学校にいる外国にルーツのある児童に対して、何気なく言っている言葉「何人?ハロー!」や「肌の色黒いやん」などを、子どもたち自身が考え直すことができたと感じる。1年生は何も考えず、素直に見て感じたことをそのまま伝えているだけだが、その言葉が、相手をとても傷つけるかもしれないということを学べたと感じた。</p> <p>また、単元のゴールとなる「世界の人たちがみんななかよくらせるせかいにする」というキング牧師の授業を軸にしたことも、1年生の児童が全ての授業がばらばらなのではなく、つながっているという印象をもつことができ、大変良かった。</p>
4. 備考 (授業者による 自由記述)	特になし

添付資料:使用した写真-1





添付資料: 使用した写真-2



あいさつカード

参考資料:

『しょうがく どうとく いきるちから 付録 学校へいくとき・世界の国のあいさつ』日本文教出版